

インレー湖道中記 その2

この報告で初めて2回連載となったインレー湖の話。初めて来た土地でしたが、とても趣深く、1回で語りつくすことができませんでした。今回は前号の続きです。

インレー湖生活2日目。この日はボートをレンタルしてインレー湖散策へ。というのも、この湖には水上集落があり(図の○部分)、そこで畑作などをしながら人々が暮らしているのです。

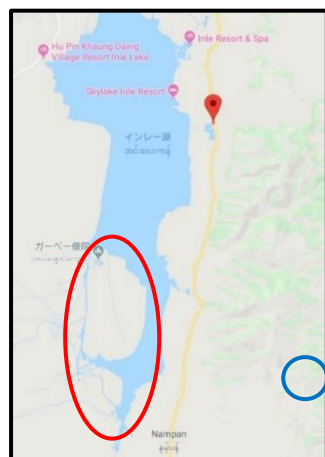


『湖の上で畑?』と不思議に思うかもしれません。メカニズムとしては、湖底に生える水草を回収し、それを湖の上に浮かべ、その上に種をまいて作物を栽培しています。私が行った時は、トマトや豆、カボチャ等を栽培していました。

その後、船で集落の中へ。集落には普通に家が立ち並び、学校や寺院などの公共施設もありびっくりしました。そして私たちが車を使う感覚でエンジン付きのボートが水路を走っていて、びっくりすると共に不思議な感じでした。

集落の中にある土産物店に、インレーから少し東(タイ国境より)に住んでいる『首長族』の方がいらっしゃるとのことで行ってみました。ミャンマー伝統の織機で織物をしていたので、記念に一枚撮らせてもらい、土産にスカーフを購入。1枚仕上げるのに3か月ほどかかるそうです。

湖上レストランで昼食の後、蓮織物工房を見学。蓮の茎の維管束をより合わせながら取り出し、それを何本も集めて1本の糸を作り上げ、それを織物にしているとのことでした。触った感触は少しゴワゴワ。けれどもその中に不思議なしっとり感と涼しさがあり、面白い織物でした。



インレー湖生活3日目。この日は車に乗ってカックー遺跡(図の○部分)を目指しました。この日はダザウモン満月だったので、遺跡内のバゴダに周辺住民も集まって、大混雑でした。しかしながら、立ち並ぶ仏塔、仏塔の上で鳴る風鈴にどことなくチベット仏教のつながりを感じ(ミャンマーの仏教は上座部仏教ですが、大乘仏教も受容されています)、やっぱり世界は繋がっているんだなぁと感じました。

昼食は遺跡近くのミャンマー料理屋で。チキンカレーと豚野菜カレーを食べましたが、どちらも優しい味で、美味しかったです。この辺りは『パオ族』の人達が住む地域。頭の布は龍をイメージしています。

このように、インレーの辺りは少数民族が多数暮らしていて、気候もやや冷涼。そんなところが私の住む北海道にとっても似ているなと感じた旅でした。

それではまた来月、こちらでの生活をお伝えします。

